

詩編 103 : 17~22

使徒言行録 1 : 3~11

「イエスさま、天に上げられる」

<昇天の出来事>

クリスマス、イースター、ペンテコステは、神さまがわたしたちのために成し遂げて下さった救いの御業を覚えて、教会が特に大切に覚えている日です。

わたしたちは4月の初めに、イエスさまが十字架に架かって死なれ、そして復活して下さったイースターのお祝いをしました。そして来週は、聖霊が降ったことを覚える聖霊降臨日、ペンテコステを迎えます。

しかし、そのイースターとペンテコステの間に、忘れてはならない大切な出来事があります。それは、今日の使徒言行録で語られていたこと。イエスさまが、復活してから四十日間使徒たちに現れ、神の国を教えられ、そして天に上げられた、という出来事です。

イエスさまが、わたしたちの罪を贖うために十字架で死なれたこと。そして、死者の中から復活なされたこと。そして、天に上げられたこと。これらの出来事は、イエスさまがわたしたちの救いの御業を実現し、罪と死に勝利し、そして、まことの、すべての支配者なられた、ということの意味しています。

わたしたちは、使徒信条でこのように告白します。

「我はその独(ひと)り子(ご)、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(をとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくんだり、三日目に死人のうちよりよみがへり、天に昇(のぼ)り、全能の父なる神の右に坐(ざ)したまへり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審(さば)きたまはん。」

天に昇り、全能の父なる神の右に坐したまへり、とありました。天とは、神さまのご支配の満ちているところです。復活のイエスさまは、天に上げられ、父なる神さまの右に坐されました。このお方が、天も地も、命も死も、あらゆるに対して主権を持ち、統べ治められる方となられた、ということです。

そして、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまはん。イエスさまが天から再び来られる日。それが終わりの日であり、救いの完成の時であり、最後の審きの時です。わたしたちは今、その日を待ちつつ、イエスさまが勝利し、支配しておられる恵みの中を、歩んでいるということなのです。

<この世の中で>

復活のイエスさまは、約 2000 年前に天に上げられてから、今のこの時に至るまで、そしてこれからも永遠に、わたしたちを、世界を、すべてを、支配しておられます。わたしたちは、このご支配を信じて、「神の国」を信じて、歩む者です。

しかし、わたしたちは、疑ってしまうことはないでしょうか。今生きている、今見つめているこの世界の中で、イエスさまのご支配とは、いったいどういうものだろう。それは、わたしたちの日々の中に、人生の中に、この世界の中に、本当にあるのだろうか。この罪深い人々の中に、憎しみや争いの中に、悲惨な悲しみの中に、耐え難い苦しみの中に、イエスさまのご支配は、本当にあるのだろうか。

あるのだとしたら、なぜ、こんなに人々は争い、苦しみ、嘆き、絶望しなければならないのだろうか。イエスさまがその神の力で、支配者の主権を行使して、すべての悪の力や、すべての罪を、一気に滅ぼし、瞬時に良い世界へと変えて下さればよいのではないかと。

<神さまの御心>

そしてわたしたちは、そのような思いで、主の祈りを祈っているかも知れません。

「御国を来たらせたまへ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまへ。」

神さまのご支配が来ますように。神さまの御心が、この地において、行なわれますように。神さまの御心が、救いの恵みが、ご計画が、神さまのおられる天において満ちているように、この地においても満ち溢れて、すべての者の上に実現しますように、と。

しかし、わたしたちはこの祈りを祈る時、この地に「神さまの御心」がなりますように、と祈っていることを、忘れてはならないのです。わたしの望む救いや、わたしの理想通りの世界や、わたしの心身の穏やかさが実現するように、と祈っているのではないのです。

わたしたちは、この主の祈りを教えて下さったイエスさまが、十字架に架けられる直前に、汗を血のように滴らせながら、どのように祈られたかを思い起こしたいのです。

イエスさまは、こう祈られました。「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

父なる神さまの御心になる、父なる神さまの御心に従う、とは、自分の思いを捨て去ることなのです。父なる神さまがなさることを、受け入れるということなのです。ですから、何よりもまず、神さまの望んでおられることを、自分の思いとすることなのです。

イエスさまは、十字架と死の苦しみを見つめておられました。まことの人となられたイエスさまは、それを耐え難いと思われた。取りのけたいと思われた。しかし、父なる神さまの御心に従うことを祈り求められ、その通りにして下さったのです。

神さまの御心とは、御子イエスさまの十字架に、わたしたちの苦しみ、痛み、嘆き、恥、絶望、そして罪も、滅びの死も、すべてを担わされるということでした。それは、愛する者たちに裏切られ、敵に唾を吐かれ、理不尽に鞭打たれるということ。そして、十字架で死に、

墓に葬られ、そして陰府にまで降られるということでした。

陰府とは、神さまから最も遠く離れたところを意味します。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」神に見捨てられた。神の御子イエスさまは、そう叫ぶところにまで、低く、深く、降っていかれたのです。

それは、わたしたちの悲しみの果て、罪の果て、絶望の果てにまで、イエスさまが共にいて下さるためでした。わたしたちが神さまからどんなに遠くにいたとしても、イエスさまがそこにまで来て下さり、このわたしを担い、救い出して下さるためでした。それが、父なる神さまの御心だったからです。

わたしたちは、世の醜いすべてのものを、すべての悪の根源を、すべての罪を、すべての敵対する者たちを、滅ぼして頂きたい。神さまの力で、あらゆる愚かなものを、消し去って頂きたい。そう願うことがあるのではないのでしょうか。

しかし、神さまがそのように力を振るわれ、御自分に背く者を、罪を、悪を、すべて滅ぼされるのならば、その滅びの只中にあるのは、間違いなくわたし自身なのです。神さまから離れたのは、自分勝手に歩んだのは、弱い小さい人たちを目に留めなかったのは、憎しみや妬み、敵意を抱いたのは、このわたし自身であったのです。

しかし、神さまはわたしたちを愛しておられた。憐れんで下さった。だから、そのように罪のために滅ぼし尽くすのではなく、最愛の御子イエスさまをお遣わしになり、この方にわたしたちの罪と滅びのすべてを代わりに担わせることを、よしとして下さったのです。

自分が悲惨の中にある時、罪に捕らわれている時、またこの世界が、争いや、悲しみや、苦しみに満ちている時。その只中で、神の御子イエスさまが、すべての悲しみと苦しみ、そしてすべての人の罪を、ご自分の背に担って立っておられるのです。わたしたちの罪の悲惨の只中に、悪と背きの只中に、イエスさまの十字架が立てられたのです。そこでイエスさまは、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」と、わたしたちのために祈っておられるのです。

<御心が地に行われる>

だから、わたしたちが、神さまの御心がこの地にもなりますように、と祈る時、わたしたちはまず自分自身が、このイエスさまの十字架の下に立ち、自分の罪がこの方に贖われ、自分の死がこの方に担われ、赦され、生きる者とされていることを、見つめたいのです。

まず、自分自身が罪を赦され、神さまの御心に従う者とならなければなりません。神さまの御心が、わたしになるようにと、祈らなければなりません。

それは、わたしたちが努力したり、頑張ったり、決意したりして出来ることではありません。神さまがご計画して下さり、イエスさまが実現して下さり、そして、イエスさまが天に上げられた後に、わたしたちに聖霊が遣わされて、実現することなのです。

わたしたちはただ、その恵みを受け入れるだけです。差し出された救いを、しっかりと受け取るだけです。悔い改めて、神さまの招きに、お応えすることです。

それでも、わたしたちの歩みはなお、罪が絡みつき、知らず知らず自分勝手な思いに振り回されて、誘惑や試みに簡単に倒れてしまうような歩みです。わたしたちは、自分の弱さや、苦しみや、悲惨さばかりを見つめるならば、自分の足元ばかりを見つめるならば、そこには慰めも希望も見出すことは出来ません。

しかしそこで、わたしたちは、罪を赦し、死に打ち勝ち、天に上げられたイエスさまを見上げるのです。わたしを支配し、わたしを捕らえ、罪を赦し、命を与えて下さる方を、見上げるのです。

陰府にまで降られ、わたしたちを罪から解放し、御手に捕らえて下さったこのお方を、天の父なる神さまは復活させ、天に上げられ、すべての栄光をお与えになりました。それは、わたしたちもまた、この方と共に天へと、復活と永遠の命へと、引き上げられるためです。

イエスさまは天に上げられて、今、わたしたちの肉の目には見えません。しかし、聖霊がわたしたちの心を天へと高く上げて下さいます。見えないものを見つめて、信じる信仰を、与えて下さいます。

わたしたちは、自分が、この勝利者であるイエスさまのものであるのなら。この地において、わたしたちを支配しているかのように見えるものは、何一つ、わたしを支配することも、捕らえることも、打ち負かすことも出来ないのだということを知るので。イエスさまがすべての支配者であるとは、すべてに勝利されたイエスさまが、わたしを捕らえていて下さるといふことです。

わたしが弱くても、イエスさまの力が捕らえていて下さいます。わたしが倒れても、イエスさまが起こして下さいます。わたしが失われても、イエスさまが見つけ出し、連れ帰って下さいます。

イエスさまが、天におられる。イエスさまが、支配しておられる。イエスさまが、勝利しておられる。わたしたちは、この地にあって、このことを信じ、このことに依り頼み、このことに希望を置いて良いのです。わたしたちがイエスさまを信じ、受け入れるなら、この恵みが、この約束が、この希望が、確かに手渡されるのです。

赦されることを祈り願うなら、赦しの宣言が聞こえるのです。悲しみや苦しみを御手に委ねるなら、慰めと平安が必ずそこにあるのです。

それを、わたしたちが感謝して、喜んで受け取ることこそ、神さまの御心です。

そして、この御心は、わたしと、そして、すべての造られた人々に向けられています。神さまは、救いの良き知らせである福音が、イエスさまの勝利が、イエスさまのご支配が、すべての人々に、地の果てにまで宣べ伝えられること。そして、すべての人々がイエスさまに従い、神さまを愛し、隣人を愛する者となることを、御心としておられるのです。

<聖霊>

イエスさまは、天に上げられる前に、今日の聖書箇所にあったように、使徒たちにこのような約束をして下さいました。

8節「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

イエスさまが天に上げられた後、約束通り、使徒たちに、教会に、聖霊が降りました。それが、来週の礼拝で覚える「ペンテコステ」、聖霊降臨の出来事です。

聖霊は、天におられるイエスさまとわたしたちを結んで下さるお方です。またイエスさまの救いに与らせるために働いて下さるお方です。わたしたちに御言葉を聞かせ、救いへの招きを教えて下さいます。そして、応答する信仰を与え、告白する言葉を与え、礼拝へと導いて下さるお方です。そして、罪人であったわたしたちを、新しく神の子として、造り変えて下さるお方なのです。

まさにそのことを、イエスさまの使徒たちが証ししています。

彼らは、イエスさまが十字架に架けられる時には、イエスさまを裏切り、否定し、逃げ出し、隠れ、恐れと、弱さと、罪に捕らえられていました。

しかし、復活のイエスさまが、使徒たちと出会って下さった。そこで、使徒たちは自分たちのすべての罪が赦されたことを知ったのです。あの十字架は、自分の罪のためだったと知ったのです。そして、イエスさまは、再び来ると約束して天に上げられました。

その後、彼らは聖霊を受けました。そして、まるで人が変わったかのように、勇敢に、そして喜びに溢れて、あの十字架に架けられた方が、わたしの主であると。わたしの神であると。このイエス・キリストにこそ、救いがあるのだと、本当に世界の果てにまで、証言しに行ったのです。

迫害も恐れず、苦しみも耐え忍び、死ぬことになっても、神さまを褒めたたえていた。それは、使徒たちがかつての失敗を反省したからとか、腹を括ったからとか、今度は強い覚悟で臨んだから、というのではありません。それは、罪を赦されたから。そして、復活し、天に昇られたイエスさまが、聖霊によって、いつも彼らと共におられたからです。だから彼らは、力を与えられ、喜びを与えられ、その恵みを証しせずにはいられなかったのです。

イエスさまのもとに、罪の赦しがある。死に打ち勝つ、永遠の命と復活の希望がある。神さまの恵みの中に捕らえられている、まことの慰めと、平安がある。

わたしたちもまた、この使徒たちの証しを、聖書の証言を、そして、信じた者たちの教会の信仰の告白を聞き、聖霊によって導かれ、イエスさまの救いを知る者となったのです。どんな悲しみにも、苦しみにも、悲惨さにも、罪にも、死にも打ち勝つことのできる、唯一のお方を、わたしたちは知っているのです。

ですから、わたしたちもまた、このことを信じ、聖霊を受け、イエスさまの恵みを、証しする者とされたいのです。神さまの御心が、この地になるように祈りたいのです。

すべての者が、イエスさまのご支配に生きる者となるように。すべての者が、罪を赦され、悔い改め、神さまの御前にひざまずくように。すべての者が、新しい命を与えられて、共に、永遠に、神さまを礼拝し、賛美するように。すべての者の痛みが癒され、涙が拭い去られ、互いに赦し合い、愛し合うことが出来るように。

そのような仕方で、神さまは、この地に、神の国を広げていかれます。

御心の天になるごとく、地にもなさせたまへ。

【お祈り】

天の父なる神さま

あなたの、愛と憐れみの御心を感謝いたします。わたしたちの罪を赦し、御許に立ち帰らせ、あなたの愛と恵みに生きることを、あなたが望んで下さいました。心から謝いたします。

そのあなたの恵みの御心に従うことが出来ないもの、御心を知らない者、イエスさまのご支配がないかのように歩んでいる者が多くおります。この御前に立つわたしたちもまた、御心を知らされていないながら、自分の心に従い、罪の歩みにある者です。どうか、お赦し下さい。

復活し、天に上げられたイエスさまが、わたしたちの罪を贖い、死にも勝利して下さい、今やすべてを治めておられます。わたしたちの弱く悲惨な現実を見つめて絶望するのではなく、イエスさまの見えないご支配こそが、わたしたちの最も確かな現実であることを悟らせて下さい。すべてに勝利されたイエスさまが、わたしたちの主でいて下さることにこそ、罪の現実に打ち勝つ力と、希望があることを覚えさせて下さい。

聖霊なる神さまが、わたしたちを天のイエスさまへと導いて下さり、信仰を与え、一つに結び合わせ、御心に従う歩みへと導いて下さいますように。

すべての支配者であり、勝利者であられる、イエスさまの御名によって祈ります。アーメン